

|            |  |
|------------|--|
| 教員名        | 御船 美智子 (MIFUNE Michiko)  |
| 所属         | 生活科学部人間生活学科生活社会科学講座  |
| 学位         | 家政学修士 (1977 お茶の水女子大学)  |
| 職名         | 教授   |
| URL/E-mail | <a href="http://www.soc.ocha.ac.jp/mifune/">http://www.soc.ocha.ac.jp/mifune/</a> / <a href="mailto:mifunemm@cc.ocha.ac.jp">mifunemm@cc.ocha.ac.jp</a> |

## ◆研究キーワード

家計 / 家庭内経済関係 / 消費者政策 / ジェンダー / 生活経済

## ◆主要業績

総数 (5) 件

- ・現代生活者のライフスタイルと生活意識の実像
- ・家庭内資源配分とジェンダー不平等
- ・家計管理

## ◆研究内容

1.COE「ジェンダー研究のフロンティア」における『家族・仕事・家計に関する国際比較研究』の韓国パネル調査、中国パネル調査に基づく家庭内経済関係の変化と規定要因についての研究。家庭内経済関係のジェンダー不平等は、夫妻の累積収入など家計フロー面、資産割合など家計ストック面、家事など家庭内生産面、収入管理や資産処分など家計管理面から見られ、日本の不平等は特に家庭内生産面で、資産貢献への不平等は韓国でみられること、日本の妻の資産形成貢献意識が高い背景として、夫妻の家事労働評価の高さがある。

2.生活者のライフスタイルの研究。現代日本の生活を家計と生活意識などの生活指標により時代区分すると1967まで、91年まで、92年以降の三区分別で区別できる。92年以降は、標準的なライフスタイルではなく格差を伴った二極化が進んでいる。背景には労働市場の変化、高齢化があり、貯蓄のない世帯が4分の1以上となり1960年代の水準に戻っている。生活の経営という視点での生活研究と支援が求められることが見出された。

## ◆教育内容

学部：生活経済学、家政経済学概論、消費者科学入門、家庭経営学、マネーワーク論で、消費者、家計主体からみた現代経済社会の仕組みについて概説した。パーソナルファイナンスのための生活設計、金銭管理、家計会計の手法、時間管理や生活協同の方法を身につけるとともに、消費者物価や景気など消費者としての経済動向の見方、制度としての消費社会、消費者政策と消費者支援、消費者情報、ジェンダー視点での家庭経済分析について示した。授業では、家計財務諸表の実習を課したり、KJ法でのキーワード整理による問題の把握方法の習得、東京都消費生活総合センターでの見学実習も盛りこみ、生活者起点での問題意識の組み立て方法、生活者支援の理論と実際を学べるように組み立てている。

大学院：生活経済論、生活経済論演習で、現代社会での生活と経済の関係を生活者・消費者の視点で理論構築する方法を、文献や実証研究結果とその議論によって検討している。

## ◆Research Pursuits

---

I make the study of household economic relations and factors by Panel Survey in Seoul and Beijing on Work, Family and Gender. I consider gender inequality from income, assets, household production and management. I also examine the present and factors effecting on the property accumulation of married women by using surveys on nuclear family. The gap between the proportion of married women's property to household property and that of married women's cumulative income to household total income is distributed widely. I found that there would be a tendency that married women who belong to households with low income, and have consciousness with division of labor by gender role, can't accumulate their own property and feel stress in their daily life. Moreover, I discovered that they think that husband has the title to husband's income. Findings suggest that married women with couple's separate income consciousness can't accumulate their property.

## ◆Educational Pursuits

---

I survey the Everyday-Life Economics, Household economics, Consumer Science, Family Resource management at faculty level. I teach personal finance, life planning, money management, account execution, time use, cooperation and cooperative society. Students exercise organization technique by KJ method in class. We visit Consumer Center and take the lecture by officer and consumer adviser.

## ◆共同研究例

---

- ・団塊世代の生活創造、女性と資産、消費生活に関するパネル調査研究

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

消費者の研究は、マーケティングなどで盛んに行われているが、その成果は企業の経営に活用されるのみで、消費者実態や動向は消費者自身の生活の質の向上に還元されていない。消費者被害が増大する中で、パーソナルファイナンス、生活経営も含めた「消費者実態」を明らかにし、それを消費者政策、消費者教育、消費者支援に結びつける方法を研究する。

## ◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

---

- ・企業からみた「消費者」と消費者対応
- ・企業と消費者の双方向コミュニケーション

## ◆受験生等へのメッセージ

---

私たちが生活している現代社会は、急激に変化しています。そして、「生活」を切り口にすると、標準的な生活の時代から、生活創造の時代に入っています。自分の身の回り1メートルから出発し、自分の生活を見つめるとともに、周りの人の生活をじっくり見て、その関係やネットワークを観察しましょう。すると、その共通の背景と生活主体の多様性がみえてくるでしょう。それぞれの生活目標や生活資源は生活者の生活経営を左右します。共通に枠組されている経済社会やその制度が、生活者にどのように届くのか、生活者はどのように認識し行動するのか、それを見極めてこそ生活者の生活の質を高めることができるでしょう。消費者、生活者をキーワードにして、生活を社会科学して産業を生活産業に、政策を生活政策に、支援を生活主体形成へと産業、政策、生活者消費者支援などを再構築することに挑んでみませんか。